

## 中学生部門

音は音楽の基本となるものですから、意識的に作り出さなければなりません。「正しい」音というのは、適切なテクニック、想像力、そしてよく聴くことによって生み出されるものです。いわゆる「良い音」というのは、旋律的で、豊かに響き渡る音です。音をつくることは、アーティキュレーションや強弱に大きな影響を与えます。ピアニストの体は、いつもリラックスした状態でなければなりません。そうすることで、腕から指先をひとつのものとして感じられるのです。これは奏者と楽器とが一体となるための基本です。音を乱暴にアタックすることなく、重みを変えることで、自由に音を作り出すことができるのです。

中学生とは思えないレベルの高い演奏でした。ただ少数ですが、選曲の面で、なぜこの曲を選んだのか、もっと自分の技術、感性に合う曲を選ぶことが大切ではないかと思う人がいました。自由曲に比べて、エチュードが準備不足の人が多かったです。

- ①予選はバッハ、全国大会はエチュードという課題になっておりますので、今回はエチュードの割合が大きくなったと思います。まずは、エチュードを完璧に演奏していただきたいと思います。
- ②自由曲については、小学生レベルの方、中学生レベルの方、高校大学レベルの方、それぞれですが、難曲に挑戦するのも大変なエネルギーがいることだとは思いますが、中学生の3年間の間に難しい曲にチャレンジして欲しいと思います。
- ③完成度の高い人とそこに達してない人の差が明確にはっきり分かれた印象です。
- ④時にエチュードの出来で差がついたように思います。表示のテンポになるべく近いテンポを目指し、そしてその中で様々な表現を盛りこめるように練習してほしいと思いました。
- ③曲に関してはその曲のキャラクターを的確にとらえ、場面ごとの変化を敏感に音色の変化へとうつしていった自分のものとして表現できるといいなと思いました。
- ④しかしながら勉強や部活が忙しい中学生生活の中で、ましてやコロナの困難な時にこの日を目指してがんばってこられたことに感銘をうけました。たくさんの素敵な演奏をありがとうございました。

皆さんとても良く練習されていたと思います。中学生は全国大会でエチュードが必須となりますので、選択曲に比べてエチュードが弾き切れていない方を見うけられました。2曲の完成度に差があるのはもったいないですね。録画での演奏については、弾く場所に合わせたペダルの踏み方にも注意が必要と感じました。また、録画ではミスを気にしすぎて真面目な演奏になりがちですが、それにとらわれすぎずに、のびやかな音楽性が発揮できるといいと思いました。

皆さん、とてもよく練習されていたと思います。今年は動画審査なので、会場で実音で審査するのは、また別の難しさがあったのではないかと思います。集中力の高い演奏が多く、中学生の皆さん、本当に素晴らしかったです。動画審査だからこそ学べることもたくさんありましたね。時間的に余裕をもって取り組めば、動画を見て客観的に自分の課題を修正する、響きによってはテンポやペダルの調整をする、など今年ならではの収穫も多かったのではないかと思います。演奏会場や録音状態もそれぞれなので、もしかしたら思ったような結果に繋がらないこともあるかもしれませんが、コロナ禍にあっても、これまでと変わらぬ姿勢で学び続けている姿に感動し、これからが楽しみな演奏をたくさん聞かせていただきました。

- ・皆さんとても良く弾かれていますが、和声の変化、音色の変化があると更にいいです。
- ・音楽と共に呼吸して欲しいです。
- ・細部まで音を良く聴いて演奏して下さい。
- ・これからが楽しみな方が多くいらっしゃいました。是非、これからも頑張ってください。